

燃料費調整額の算出方法の変更について(関西電力エリア)

燃料費調整額の算出に使用する計算式は変更せず、算定に使用する数値(電源比率、基準燃料価格/基準単価)を変更します。

1. 算定に使用する電源比率の変更

現在、地域電力会社と同じ数値としている電源(原油・液化天然ガス・石炭)比率を、J:COM の実際の調達電源に合わせます。

	数値
α (石油)	0.0381
β (LNG)	0.1488
γ (石炭)	0.8225

2. 算定に使用する基準燃料価格/基準単価の変更

「電源調達調整額」の導入後の電気料金を基準として調整を行うために、基準燃料価格および基準単価を変更します。

	円(税込)
基準燃料価格	67,600
基準単価	0.253

燃料費調整額の算出方法について

以下は、2023 年 3 月分(4 月検針分)の東京電力エリアでの算出方法です。

赤文字部分が、2023 年 4 月分(5 月検針分)から変更され、かつエリアごとに異なる部分になります。

①「平均燃料価格」を算出する

【方法】

- ・財務省が発表する貿易統計の輸入品の数量および価額の値にもとづき、次の算式によって原油換算値 1 キロリットル当たりの平均燃料価格を算定。

$$\text{平均燃料価格} = A \times \alpha + B \times \beta + C \times \gamma$$

A = 各平均燃料価格算定期間における 1 キロリットル当たりの平均原油価格

B = 各平均燃料価格算定期間における 1 トン当たりの平均液化天然ガス価格

C = 各平均燃料価格算定期間における 1 トン当たりの平均石炭価格

$$\alpha = 0.1970 \quad \beta = 0.4435 \quad \gamma = 0.2512$$

※平均燃料価格は、100 円単位とし、100 円未満の端数は、10 円の位で四捨五入。

※各平均燃料価格算定期間における 1 キロリットル当たりの平均原油価格、1 トン当たりの平均液化天然ガス価格および 1 トン当たりの平均石炭価格の単位は 1 円とし、その端数は小数点以下第 1 位で四捨五入。

【計算】

$$\begin{aligned} \text{平均燃料価格} &= 90,114 \text{ 円/kl} \times 0.1970 + 141,672 \text{ 円/kl} \times 0.4435 + 55,946 \text{ 円/kl} \times 0.2512 \\ &= \underline{94,600 \text{ 円/kl}} \end{aligned}$$

②「プラス調整かマイナス調整かを確認する

【方法】

- ・平均燃料価格が、**基準燃料価格 44,200 円**を下回る場合はマイナス調整(減額)、44,200 円を上回る場合はプラス調整(増額)の算式を使用。

【確認】

- ・平均燃料価格が、**44,200 円**を上回るため、プラス調整(増額)の算式を使用。

③「燃料費調整単価」を算出する

【方法】

- ・以下の算式を使用して、燃料費調整単価を算出する。

$$\begin{aligned} \text{燃料費調整単価} &= (\text{平均燃料価格} - \text{基準燃料価格}) \times (\text{基準単価}) / 1,000 \\ &= (94,600 \text{ 円/kl} - \text{44,200 円}) \times (\text{0.232 円}) / 1,000 \\ &= \underline{11.69 \text{ 円/kWh}} \end{aligned}$$